

市民文芸

短歌

令和七年度第五十四回
阿南市春季短歌大会 選

特選

「じいちゃん…」睡魔に負けて乗り過ごし四駅む
こうで迎えを待つ娘 近久真智子
何か良き事起こらむか腹に巻くカボチャ七粒ふく
らみきたる 西條 悦子
夢に見る亡夫との記憶うすれゆき残されたのは癖
字の手帳 五島 秀子
考える人のごとくに驚一羽溜池にたつ春の夕ぐれ
森田 道子
今時のお洒落たしなむ若き等の漁に荒れたる指の
うつくし 島尾 妙
あといくら桜見らるる乳ガンの吾にふれふれピン
クの花よ 松島 博子
センプリを夜毎に亡母は飲んでいた暮し貧しき囲
炉裏の端で 野網 恭子
眠られぬ夜はラジオの深夜便 聞きつつ錆びた脳
をほぐす 和淵 智子
牛糞を素手に掴みて田にまきしその手健在百寿の
膳に 岸 みどり
おゆび揃え吾の手にちゃんと福くれぬ箱廻しの木
偶春をまとい来 井上 京子
「持つとり」と母にもらったためまい薬令和二年よ
肌身離さず 陶久 陽子
踏まれても刈られても誰はばかり根つこの強い
我は雑草 島尾 輝光
蒟蒻を炒る音さへも心地よし苦手行事を乗り越え
し夕 廣瀬 艶子

俳句

阿南市俳句連合会 選

たけのこや昨夜のうちに背丈超え
梅雨どきや神羅万象活き活きと
友の訃を報す紙面や梅雨の朝
大胆な包丁捌き初鯉
かきこそと軽き新茶の袋かな
もてなしの新茶にむせて照れ笑い
夏めけり離島に向う連絡船
夜半の風栗の雄花の散らばりよう
手に余る畑に思案ほととぎす
ひと息に湿布剥がしぬ夏至ゆうべ

久米 浩一
藤崎 恵竹
鳥海 勇二
山野 賢治
青木 慧
前原 真理
表原 清美
鈴木 順子
宮崎三千代
岡久 玲子

川柳

阿南川柳会 選

日焼け止めたつぷり塗ってまだ女
レジ前で頭悩ますキャッシュレス
雑草の伸びにツツジが縮こまる
まず腰に一声掛けて持ち上げる
苦と薬を合わせ鏡にして生きる
相談の財布セルフへ行けという
頭数一人足らんと呼び出され
住んでみて愛妻家ではないと知る

神野 鈴代
佐藤つたえ
鈴木レイ子
西田 修身
野村 敏子
橋本 征介
若木アヤ子
渡邊ろまん

一般応募

戦争を知らぬ平和の長い脚
欠伸する犬が急かせる立ち話

島尾美津子
武田 敏子

漢詩

阿南漢詩研究会・青松吟社 選

詠吉田松陰

長州才穎性情純
爲國貫真抛一身
育得英雄松下塾
幽囚先見拓維新

折野 博子

夏夜竹林

深林月照竹千竿
解簾無音宿鳥安
往古右丞如有訪
清光光裏引琴彈

田中 公

榛名山

倒影浮湖碧翠山
容姿秀麗白雲間
上州富士人登頂
朱夏欣欣曳杖還

池田 行子

※右丞―王維の別称

倒影湖に浮かぶ碧翠の山
容姿秀麗 白雲の間
上州の富士 人頂に登り
朱夏 欣々 杖を曳いて還る

